

宮内彩の New Zealand Style no.6

Sabatini White

昨年10月に行われた2004秋冬NZファッションウィークの中で、センセーショナルなコレクションを発表したのがサバティーニ・ホワイト。オークランド・ミュージアム内で、マーク・シャガールの絵画にインスピレーションを受けた、ロマンティックで甘いニットウェアがステージを飾った。

羊の国、ニュージーランドだけにニットブランドのクオリティーには定評があるが、クリエイティビティにおいても世界レベルに達するブランドは数少ない。そんな中、サバティーニ・ホワイトは素材、デザインともにトップレベル。全生産の3/4以上が輸出されているだけに、グローバルなマーケットを狙った戦略が成功している。

この秋冬コレクションのチーフデザイナーを務めたジョー・チェンバースは出産の為に惜しまれながらこのブランドを去ってしまった。春夏のデザインを担当したのは後任のエマ・グローガンだが、社長のトニー・ミリチがブランドのクリエイティブ・ディレクター的存在も果たしている。

これまでにこのコーナーでご紹介したブランドは、どれもデザイナーが自らビジネスを立ち上げ、徐々に拡大して来たものばかり。NZでは、多くの場合、デザイナー本人がデザインからマーケティング、セールスまで手がけ

ている。サバティーニはそういった「デザイナーブランド」というよりも「アパレル企業」だ。ソニー(大衆)、アリザ(ゆったりサイズ)、サバティーニ・メン(男物)も含め、トータルなブランド展開をしている。他のデザイナーたちに多い「たまたま好きなことをしていたら、売れちゃった」というのではなく、明らかに「戦略」がある。ニットメーカーとして1950年代に創立されたファミリービジネスの二代目にあたるトニーはエネルギーに満ちた経営者だ。アートスクール卒の経歴も持ち、ブランド

の方向性を決める鍵を握っている。メルボルンに住む、妹のマーギーはオーストラリア・マーケットの担当だ。彼女のセンスも、コレクションには大きく反映されている。トニーの子供たちも社内で仕事につき、ファミリー

ービジネスをサポートしている。

クロアチア出身の両親と共に、子供の頃にNZに移民して来たトニー。両親はニットのメーカー、「ソニー・エレガント・ニットウェア」を設立し、母ソニアがデザインしたニットウェアを製造した。今では社員50人以上をかえ、オーストラリアにもオフィスを持つ。トニーが社長である今も、83歳になる父ザルコの存在は無視できない。私がインタビューに訪れた日も、トニーと驚くほど似ている、ザルコの姿を見か



LUNCH

ラビットファーの衿付きカーディガンと皮のスカートで、お上品なランチタイムを演出してみよう。
毛皮の衿付きカーディガン\$310
皮スカート\$505

WORK

暖かそうなニットジャケットをスエードのマキシスカートと。ラフになりすぎない、大人っぽい味わい。
ニット\$390
スエードスカート\$550

WEEKEND

鮮やかなカラーのニットのコートはどんよりしたお天気でも楽しい気分を演出できるアイテム。
ニットコート\$435

WORK

ちょっとレトロな味わいのニットのロングコートはジーンズでも、ミニスカートでも相性抜群。
ロングコート\$390
ピンクのセーター\$150

WORK

上下茶色でシックにまとめて。レザーのスカートもニットと合わせてフェミニンに。
茶色セーター\$285
皮スカート\$505

DATE

流行の千鳥格子のノースリーブのミニドレスは愛らしい一品。ブルーのコートと合わせて。
スリープレスワンピース\$299
コート\$435

WEEKEND

秋冬コレクションの代表的な作品の一つ、ピンクのフード付きベスト。ジーンズ姿にも甘さをプラス。
ピンクのセーター\$150
ピンクのベスト\$380

DINNER

一足お先に春夏ものをご紹介します。パステルのツイードなスーツは仕事にも、デートにもオールマイティ！
ジャケット\$275
セーター\$150
スカート\$202



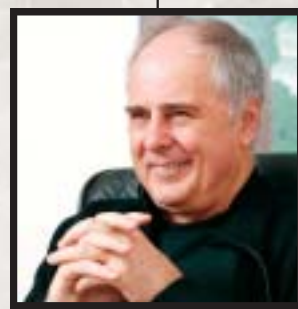
けた。

NZのニットメーカーが、海外からの輸入の急増の為に苦境に落ち入った80年代後半。サバイバルをかけて、1990年に「サバティーニ」ブランドが発表された。それまでの大衆路線とは違い、ファッションリーダーとしての位置づけを狙って、見事に成功したのだ。「私たちは、ボディーコンシャスな路線を展開することに決めたのです。

自分の容姿に気を使い、ジムでトレーニングし、プロポーションを保っている、おしゃれ意識の高い女性を狙いました。これは全マーケットのほんの5-10%の女性です。」そして、輸出に目を向け、オーストラリアで大きな成功を収めた。「オーストラリアでまず成功することが、世界進出の第一歩だと思

います」とトニーは語る。今ではオーストラリアで人気ブランドとして10位以内の地位を確保している。そして、2001年のNZファッションウィークの

開始と共に、サバティーニ「ホワイト」という、更にトレンドセッターとしてクリエイティビティを強化した「コレクション向け」のブランドを立ち上げた。ファッション誌はこぞってグラビアに取り上げ、ニューヨークの有名な専門店、ヘンリー・ベンデルにも進出を果たした。今ではニットのみならず、皮革や布帛もラインアップに加わり、トータルなブランドとしてますます強



みを見ている。私がマウント・ロスキルの本社ショールームを訪れた時には、ちょうど春夏もののサンプルが並んでいた。秋冬に引き続き、次春夏も甘いパステル中心の愛らしく、セクシーなコレクションが展開されている。

取り外しが自由なコサージュやリボンの飾りが、フェミニンな可愛らしさを演出している。今店頭で並んでいるのは秋冬ものだが、8月以降から店頭にお目見えする春夏コレクションも楽しみにしていて欲しい。



宮内彩 東京生まれ。西町インターナショナルスクールを経て、スイス・ルロセ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクション取材。雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オークランド在住の中村嗣氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をNZに移動。01年、長男・章人君、02年、次男・天人君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動を行っている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス」「おしゃれのエッセンス旅コレクション」(母・大内順子と共著)等。NZでの生活のエッセイが載っているホームページはwww.ouchi-junko.com

Christchurch stockists : Ballantynes (03) 379 7400 or 0800 184 000
Sloane Square Merivale Mall (03) 355 5311

Auckland stockists : HARTLEYS (8 stores) Phone ST. LUKES (09) 846 4436 ● SABINE 277 Newmarket (09) 529 0142 ● SABINE Ponsonby Road (09) 360 6310 ● ANNE MARDELL High St, Auckland City (09) 373 9911 ● ANNE MARDELL 2/4 Remuera Road ● ANNE MARDELL Newmarket (09) 524 4844